

ゆく秋をみる

秋の風情は、寒い冬へ向っての哀愁をもつ葉ははらばらすが、その中において、葎やカサのさわだつ木々の紅葉は、人々の心を山野へと誘います。

さて、紅葉は、春～夏の成長期を終えて秋を迎えた木々が、気温の低下につれて、葉から枝への物質移動が妨げられ始めると、葉柄ごとに離層が形成され始め、

その結果、アントシアニンやフラバノール等の紅色色素が葉の細胞液に蓄積するためによります。

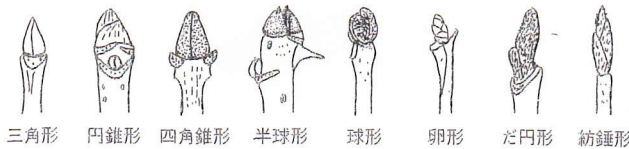
又、ブナ科のケヤキ、クヌギ、クリ等の葉の褐色化は、葉中のカテキン類が化学重合したフラバノールにより、そして、美しい紅葉の条件は、その秋の気温の高低差が大きく、湿度高く、紫外線が多いことです。

紅葉に次ぐ落葉について、それは本来樹木の葉の自然な新陳代謝ですが、冬に向けた秋に、全葉を一斉に、又は順次、落すケースと、春の新葉と入れ替りに、一斉に、又は順次、旧葉を落すケースとに大別されます。しかし、ここに、紅葉と落葉の観察上、大切な基礎知識としての樹木の葉の形や生態による分類があります。

広葉樹 (常緑樹 / 落葉樹) 針葉樹 (常緑樹 / 落葉樹)

次に樹木達にとって最重要な秋の仕事は、来春に向けての冬芽造りです。冬芽には葉芽、花芽、葉芽花芽共有のものとの三態があります。

冬芽の形



平野弘二(2004). 冬の樹木より転写

架空植物 大椿の紅葉について

「上古大椿あり八千歳を以て春となし八千歳を以て秋となす、その長寿を椿壽という。」
(莊士道遠遊 BC360)

「君が代は唐紅の深き色に八千歳椿紅葉するまほ」 (夫木和歌抄29)

小 坂 和 男